



Title	医者の上手な選び方 : 医者選びも寿命のうち
Author(s)	高井, 新一郎
Citation	癌と人. 1999, 26, p. 6-8
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23855
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

医者の上手な選び方——医者選びも寿命のうち

高井 新一郎*

長年にわたって医者をしていると、いろいろな患者さんに出会います。今回は、その中で印象に残っている二人の患者さんを紹介し、患者さんの運・不運や、医者の上手な選び方について述べたいと思います。

◆病気が治るかどうかは運・不運だけで決まるのではない

まず、最初の例は甲状腺癌の肺転移でわれわれの外来に紹介されてきた30歳位の男性です。この患者さんは会社の定期健康診断で胃のレントゲン撮影を受けたところ、読影を担当した放射線科の医師が、偶々フィルムに写った肺の一部に甲状腺癌の転移に特徴的な小斑点状の陰影があることに気が付いてくれたのです。私たちの病院で施行した甲状腺全摘術および放射性ヨード療法の結果、肺転移巣も、完全に消失し、甲状腺ホルモン内服を続けながら、約20年後の現在も全く元気に活躍しておられます。胃の集団検診に使う小さなフィルムで、きわめて小範囲しか写っていない目的外の臓器（肺）の異常所見を見逃さなかった放射線科の医師に敬意を表します。この患者さんの場合、自覚症状もなく、また、胃のX線写真を読影する医師を自分で選ぶこともできなかったわけで、このようにうまく行ったのは「良い医師にレントゲン写真を見てもらえた」からです。「運が良かった」としか言いようがない例です。

もう一例は、呼吸のたびにぜいぜいと音がするようになり、ある医師に「喘息」と診断されて半年以上にわたって投薬を受けていましたが、一向に改善せず、私たちの外来に來られた患者さんです。この方は息を吸い込むときに首

の付け根の所（鎖骨のすぐ上のくぼみ＝鎖骨上窩という）の皮膚が凹むことから、気管に狭い箇所があることがすぐに分かり、気管粘膜から生じた悪性腫瘍であることが判明しました。腫瘍の摘出には喉頭・気管を共に切除する必要があったので、この患者さんは発声することが出来なくなりました。術後は器具を使って声を出し元気にしておられましたが、2年目頃に肺転移・脳転移などを起こして最近亡くなられました。この方の場合、正しい診断が遅れたことが問題です。最初の医師が「喘息」と誤診したことが悪いことはもちろんですが、一方、その医師から投薬を受けても一向に症状の改善が無かったにも拘わらず、患者さんがいつまでも他の医師の診察を受けなかったことも大いに問題です。患者さんサイドにも診断の遅れに対してある程度の責任があるといわざるを得ないわけで、つまり、単に運・不運の問題だけではありません。

これらの例のように、一口に癌といっても完全に治せるものもあれば、発見の遅れが再発・死亡につながる場合もあり、後者の中には患者さんサイドが適切に対処すれば運命を変えることが出来ることさえあるのです。

ということになれば、「上手な医師のかかり方」について考えてみることも無駄ではないと思います。本題に入る前に少しまわり道をして医者以外の職業と比べてみることにしましょう。

◆医者とコックさんは似ている

コックさんの多くは調理師学校などで教育を受けて調理師免許を取った人でしょう。学校で

* 医療法人協和会 聖徒病院 名誉院長 (財)大阪癌研究会一般学術研究助成選考委員

は日本料理，フランス料理，中華料理の何れについても講義や実習を受けた筈です。免許取得後にそれぞれの希望によって，しかるべき料理店で修行したのちに和食専門とか中華料理専門というように自分の得意な領域に進むことになります。さらに和食の中でも，天ぷら・麺類・すしなどの専門分野に分かれるし，四川・広東など中華料理も色々あります。こういった点では，医師免許取得後に「内科」「外科」「産婦人科」といった専門に分かれる医師の世界と同じです。

さらに，材料の仕入れから，下ごしらえ，味付け，盛り付けまで主人ひとりで行っている店もあれば，大勢の従業員を指揮・監督して営業している中規模・大規模のレストランもあります。前者は個人開業医，後者は病院に相当するでしょう。また中・大規模店にも取り扱う品目の多い百貨店の食堂やファミリーレストランもあるし，逆にてんぷら専門店もあります。これらは総合病院と，単科病院にあたるでしょう。

◆料理店の選び方は？

それでは，皆さんは料理店をどのようにして選んでいますか？何が食べたいのか？何人で食事をするのか？予算は？などを考えた上，友人の話や情報誌の記事を参考にして選ぶのが普通でしょう。もちろん何の為の食事かということも重要なことです。たとえば，単身赴任のお父さんが会社の帰りに一人で夕食を摂りながら軽く一杯というのなら，駅前の小料理屋あたりが良いでしょう。でも，100人位が集まる予定の結婚披露宴なら，どこかのホテルの宴会場を予約しなければいけません。また，てんぷらが食べたいのにイタリア料理店を予約する人は居ないし，ビーフステーキが食べたくてうどん屋に入る人もないでしょう。このようにして，料理の種類や，人数などが決まったあとで，最後にどの店を選ぶかの決め手になるのは，予算に合わせて一番おいしい店を選ぶのが普通ではないでしょうか？

医師とコックさん，医院・病院と料理店とが

よく似ていることを思えば，何かの病気になった時にどの医者にかかるかを選ぶのも，上に挙げた例にならって考えてみるのが面白いと思います。

◆医者を選び方

阪神・淡路大震災のような災害，あるいは集団食中毒や，和歌山のカレー事件など特殊な場合を除いて，患者の人数は一人としてよいでしょう。また，費用は健康保険で決められているので，これも医者選びの大きな要素にはなりません。

すると，医者選びの時に考慮すべき要素は，「どのような病気に罹っているのか？」ということと，「その病気について詳しい医者はだれか？」ということになります。これらの要素は飲食店の例でいえば「何が食べたいか？」と，「どこの店がおいしいか？」に相当すると思います。

しかしながらこれらの間には根本的な「違い」があります。すなわち「何が食べたいか？」は完全に自分自身で決めるべきことであるのに対して，「どのような病気に罹っているのか？」は自分では普通はわからず，医者にかかってはじめて診断がつくことが多いからです。また，「どこの店がおいしいか？」は自分で何回も食べ歩いて「お好み焼きならこの店」「ビーフステーキならあの店」というように，実際に比べてみる事が出来ます。ところが，「病気」はそうはいきません。たとえば何回も大腸癌にかかってみて「どこの病院が上手に治してくれるか？」を比べてみることは無理です。

こう考えてくると，医者選びの本質は「良い医者」探しに尽きることになります。それには一体どうすれば良いのでしょうか？

◆信頼できる家庭医を見つけておくこと

前に述べたように，一人の人が何回も癌にかかってみることはできません。でも，家族の誰かが風邪引きや，下痢に罹ることはしばしばあることです。その時に近所の開業医に診てもら

う機会はかなり多いでしょう。特に小さいお子さんのいるご家庭では、幼稚園などで「おたふくかぜ」などの感染をうけて発熱したりすることはよくあることでしょう。そのような機会を利用して、信頼できる家庭医を見つけておくことが大切です。

それでは、「信頼できる家庭医」とはどんな医師でしょう？一言でいえば「自分で治せる病気か、自分の手におえない病気かの見極めが確であること」です。自信のある病気はすぐに治してくれて、自分の手におえないときには他の開業医や病院にさっさと紹介してくれる医者が家庭医として良いと思います。

隣の家に行くには歩くのが一番早いし、隣町なら自転車の方が便利でしょう。でも東京までなら新幹線が良いし、アメリカまでならジェット機に乗って行くのが当然でしょう。それと同じで、ちょっとした風邪引きや、下痢なら家庭医で治してもらうのが一番で、虫垂炎やヘルニアなら近所の病院が良いでしょう。でも心臓移植が必要なら日本中でも限られたいくつかの施設しかできません。このように、病気の程度に応じて医院・病院の使い分けをするのが賢いやり方です。

もちろん、実際には性格的に合うかなどいろいろな条件があるでしょうが、自分にとって信頼できる家庭医が見つかったなら、普段から出来るだけ親しくしておくのが良いでしょう。そうすれば、親戚の誰かが重い病気になった時にも親身になって相談に乗ってくれるでしょう。医師はそれぞれの地域医師会に属しています

し、大学の同窓会などでいろいろな病気の専門家に関する情報を持っているものです。

ただ、診察時間中の医師との会話は、なるべく簡潔な方がよろしい。一人の患者さんの話を長時間聞けるほど暇ではないからです。だから、込み入った相談がしたいときには、予めアポイントメントをとって、ゆっくり話を聞いてもらうようにしましょう。(こういった面談に費やした医師の専門的知識や時間に対して、報酬があつて然るべきだと思うのですが、今のところは医師のサービスです。この点についてはここでは触れないでおきます。)

医師の方も、地域医師会や大学同窓会を通じてなるべく情報通になっておくことが必要と思います。

◆まとめ

最後に医師の上手な選び方をまとめておきます。

1. 信頼できる家庭医を見つけて、普段から親しくしておくこと
2. 病気の程度に応じて医院・病院の使い分けをする
3. 重大な病気にかかったら、専門医にかかること
4. 専門医選びについては、かかりつけの家庭医に相談すること

以上のことを参考にして、重大な病気を、早期に発見して、適切な治療を受け、健康な一生を送れるように気を付けましょう。